

第5学年社会科学学習指導案

1、単元名

工業と私たちの暮らし

2、単元の目標

(1) 社会科としての目標

○生活を便利にする工業製品が原材料をもとに工場で製造ライン等で組織的に作られ、各種交通網によって運ばれ自分たちのもとに届いていることを理解する。

○過去-現在-未来の連続性の中で、工業のあり方が環境や人の働き方の面で変化していることに気づき、自分たちが大人になる未来のよりよい在り方について考えることができる。

(2) 汎用的スキル

○様々な人の立場を通して水俣病事件や日本理化学工業の取り組みへの理解を深め、固定的な価値観ではなく考えを更新し続ける重要性を実感する（批判的思考力）（メタ認知力）

(3) 態度・価値

○水俣病患者や日本理化学工業の従業員の社会との関わり方を受け止め、未来の世の中で様々な立場の人が働くことについて自分なりの考えを構築する（他者に対する受容・共感・敬意）（より良い社会への意識）

3、児童の実態

認知的側面が発達する5年生の段階だが、4年生までの学習と段差を感じる人が多い時期でもある。1学期から「具体的な人の立場で社会的事象を見つめる」ということを意識して授業を重ねることで、社会事象を自分ごととして捉えたり、「どうなることが良いか」と自分を含めたこれからの世の中を考えたりすることがしやすいようにしている。実際、子どもたちも授業で学んだことをもとに家庭で考え方を広げたり、週末に自己学習で自分とは別の立場の人の考えを調べたりすることで考えを深めることを楽しむ姿が増えてきている。

本単元では自分たちとは少し距離のある題材をもとに「過去-現在-未来」という枠組みの中で追究をしていくが、時代を超えて間接的に大きく関わる事象であること、学んできた構造とつながりを見出しやすいことに気付いた時に自分ごととして引き寄せてほしいと授業者としては願っている。大きな文脈の中で学び、より物語のように自分の価値観と繋げられるように、そして未来の在り方に目が向くようになっていくことを期待している。

4、単元について

①教科から見た特性

本単元は「過去：水俣病事件」「現在：自動車工業・日本理化学工業のチョーク作り」「未来：これからの工業」と日本の工業の時代の流れとともに進む構想になっているが、一つの社会事象にじっくりと向き合ったその後、似たような視点で比較して考えやすい事象を並列している。その中で子ども自身が社会的な見方・考え方を働かせて対象に迫り、意味や価値を解釈することで、より具体的で文脈的な事柄として内面化されていくことを願っている。一人一人が具体的な事実をつかみ、自身の価値観とつなげることで涵養されてきている資質・能力が発揮されていくことを期待する。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

「障害」「働く」ということが視点としてあることで、「より良い社会」を目指す共生社会の方向性が見出しやすくなり、向き合う自分自身もより自覚化されメタ認知や批判的思考力の伸長も期待できる。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全25時間 本時20/25時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・工業でイメージすることや身近な工業製品を考える	○向上心	○自分の生活を思い出しやすい問いや活動を設定する
第2次 (16時間)	・「水俣病事件」から工業の“過去”について考える	○他者に対する受容・共感・敬意 ○協働する力	○社会問題の全体像をつかむために、情感に訴える教材や問いを設定し追究していく
第3次 (1時間)	・自動車工業から環境に配慮した“現在”の工業のあり方を考える	○問題解決力	○「水俣病事件」の構造を転用し、「過去」と「現在」の変化が気付きやすいようにする
第4次 (6時間)	・「日本理化学工業」の取り組みで“働くこと”“お金”に焦点を当てて“現在”の工業のあり方考える	○他者に対する受容・共感・敬意 ○批判的思考力	○様々な立場の人を通して考えることで自己の価値観を見つめ相対化できるようにする
第5次 (1時間)	・これからの工業の在り方とわたし	○より良い社会への意識 ○メタ認知力	○これまでの学習感想を読み返し現時点の自分の価値を構築

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

日本理化学工業のチョークづくりの実際を資料から読み取り、工場の特徴について気づいたことを交流し、自分なりの「工場の理念（大切にしていること）」の捉えやその価値を考え記することができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	○生産ラインの確認をし、前時の学習感想を読む ・段々とチョークが出来上がっていく様子に注意して並べていけばラインのつながりがわかると思う ・ラインとラインをつなぐ人の役割が大切なのかな？ ・前回の授業でチョークから色んな「？」を作ったけれど、 □□さんみたいな資料からの視点は無かったからすごい	◇既習の自動車工場の学びをつなげながら、根拠を基にした予想を出し合うなかで、前時設定した「？」もつなげていくことで学習の見通しを持てるようにする（先を見通す力）
展開 30分	○映像資料視聴「企業魂」 ・え？あのペースで箱詰めしてるの！？どれくらいの時間続くかな ・多分悪いチョークを見つけている作業に見えたんだけど、本当に 区別できているのかな ○紙の資料配布：「日本理化学工業株式会社 会長 大山 泰弘氏の生き方」 ・1960年に知的障害者が2人入社ってあるよ ・ホタテを使うってことはゴミが出ないってことだから環境に優しいのかな？ ・これまで小さくなったチョークは捨てていたけど、畑にまけば良 い土になるなんて知らなかった ・まだ新しい商品を開発しているんだ！キットパスってどんな商品 なのかな？ ○「おっ！」となったところを交流：近く→全体 ・一人一人の役目があって働いている人に達成感があるのがすごいと思った ・その一人一人の達成感はきちんと働けるところにつながると思 うけど、きっと映像で流れていたわかりやすい工夫を健常者の人 がしているからじゃないかな ・なんで健常者も障害者も区別せず働けているんだろう 日本理化学工業が会社として大切にしていることは何だろう？ ○日本理化学工業の工場理念を考える ・この工場は環境や人のことを大切にしているけれど、そういう 工場の社長さんの考え方を知ってびっくりした ・水俣の時の環境破壊や人への差別と比べると全然違うから驚い た ・ちゃんと過去の工業の悪かったところを反省して今の工場づく りに生かしているのかな ・社員の幸せって水俣の時には聞いたこともなかったけど、水俣 病の患者さんもこういう風に働けたら良いのに	◇知的障害がある従業員の映像も、すぐに知的障害だとわからないように時間差で情報を出すことで「世の中で働いている」ということの意義を考えながら捉えられるようにする（他者に対する受容・共感・敬意） ◇感覚的な「おっ！」を引き出し、その背景：認知したもの・思考したこと・つながった学び等を開陳することで、水俣からの学びの意味を点から線につなげたい（メタ認知力） →27児、35児の学習感想を位置付けるか →6児の「べつの色」も重視したいが生産ライン「順番」と「ひと」を優先して押さえるか ◇障害がある人が働いていることにたいして、水俣病事件とつなげながら考えることで、その意義について意識できるようにする（より良い社会への意識） ◇「環境」「ひと」「会社の理念」など水俣病事件と比較しながら事実を捉えられるように、視点を整理しながら意見を

こ戻

ることで社会問題の解決の可能性を広げたり世の中の理想を描けたりできるようにする（よりよい社会への意識）

結末 8分	○工場の理念として心に響いたこととその理由をノートに記す ・今障害のことを受け入れる会社は少ないけれど、これからの会社では雇用が増えていくのだろうか ・今水俣のことを考えると、もっと患者さんが世の中とつながれる解決策があるような気がする ・具体的に働いている人がどんな気持ちで仕事をしているのか知りたいな	◇感覚的に気になったこととこれまでの価値観とで照合し自分自身の考えを更新できるように声かけ（批判的思考力） ◆（これまでの学びの足跡をつなげ）自分なりの「日本理化学工業が大切にしていること」の捉えやその価値を考えたりノートに記したりすることができる（発言・ノート）
------------------	---	--

●記録映像 有（前方斜めより教師、子どもの表情を映したもの）